

## 1月の寄贈品コーナー

# 「足柄と郡内の道祖神祭写真展」

2004年1月8日（木）～2月15日（日）

**新**年を迎えると、間もなく小正月がやってきます。県内では何といても道祖神祭、セエトバライが小正月行事の代表格。大磯左義長の炎を見上げるのを新春の恒例にしている人も少なくないことでしょう。

そこで、博物館でも道祖神祭の特集展示をします。紹介する地域は足柄と郡内。郡内というのは、山梨県の北都留郡・南都留郡を指します。相模と甲斐で國は違えど境を接する両地域の道祖神祭はどんな特色があり、どんな違いが見られるのでしょうか。

足柄上郡は、天を突かんとそびえ立つオンベが最大の見所。郡内は、山中湖村、忍野村、富士吉田市、河口湖町といった南都留郡の行事を紹介します。南都留郡は、当館フィールド相模川流域の源流域でもあります。行事内容は相模とはまったく違います。以下にその特色をまとめてみました。

### ①お神木を立てること

足柄のオンベに相当しますが、こちらは杉か落葉松の大きな丸太を柱に立てます。山中湖村平野や河口湖町大石の巨大なお神木は目を見張るばかり。

### ②お神木を燃やさない

これこそ最大の特徴。お神木は1月13日か14日に立て、燃さずに17日か18日の朝に倒します。倒したお神木は、新築予定の家や、昨年男の子の生まれた家



忍野村内野のお神木

などに縁起物として授けられ、昔は家の柱や鯉幟の竿に用いました。

### ③ヤナギ、ヒイチ、ホウコ

お神木に取り付ける主な飾りに、ヤナギ、ヒイチ、ホウコがあります。ヤナギは割り竹に色紙のオシメを飾り付けたもの。ヒイチは、三角形の座布団様で、主に厄年の人

が奉納します。ホウコはサルッコとも言うぬいぐるみで、主に昨年子供が生まれた家で奉納します。これらの奉納物は、お神木倒しの後、各家々へ売られます。ヤナギとヒイチは玄關に飾ると魔除けになり、ホウコは子供のいない夫婦が毎日かわいがってあげると、子供が授かるといわれます。

### ④毎晩どんどん焼きをすること

14日にお飾りなどを燃やすのは相模と同じですが、この火を三日間、毎晩燃やし続けるのが特徴です。近所の人もこの期間に三々五々、お札などを納めに来ます。

### ⑤厄年との関係

道祖神祭と厄年との関係が深いのも特徴です。厄年の人は、ヒイチの他にも、ザルやカゴ、手ぬぐいなどを奉納することがあります。また河口湖町大石では、十四日祭礼といって、ドンドヤキが点火すると、42歳と25歳の人が子供集団を引き連れて、「ご祝い申そう」とどなり歩き、地域の商店や厄年の家に寄って酒をもらい集めます。道々一升瓶を仰ぎながら歩くので、夜が更ける頃にはもうへべれけで、たいへんな騒ぎです。

**以**上のように、相模と甲斐の道祖神祭はこんなに違います。厄払い、厄落としが目的なのは共通していますが、相模は火祭りとともにクライマックスを迎えるのに対し、甲斐ではドンドヤキよりもお神木が大きな意味を持つことに大きな違いがあります。南都留郡の行事を観ていると、お神木立てとともにカミが降臨し、小正月の期間お神木に宿り、お神木倒しとともに、カミは縁起物となって地域住民に宿るとも考えられます。何のカミ様なのかは、ここでは内緒です。



南足柄市雨坪のオンベ